

# ヒュミラ®による え そ せい の う ひ しょう 壊疽性膿皮症 治療を受けられる方へ

監修：福島県立医科大学 皮膚科学講座 教授 山本俊幸 先生



※本冊子中、ヒュミラ®皮下注40mgシリンジ0.4mL、ヒュミラ®皮下注80mgシリンジ0.8mL、ヒュミラ®皮下注40mgペン0.4mL、ヒュミラ®皮下注80mgペン0.8mLは「ヒュミラ®」と略して記載いたします。

# もくじ

はじめに	壊疽性膿皮症の治療の目的	3
壊疽性膿皮症とは？	壊疽性膿皮症の原因	4
	慢性的な炎症と「TNF $\alpha$ 」の関係	5
	壊疽性膿皮症の治療	6
ヒュミラ <sup>®</sup> について	ヒュミラ <sup>®</sup> の働き	8
	ヒュミラ <sup>®</sup> の投与方法	10
	ヒュミラ <sup>®</sup> の投与部位	11
ヒュミラ <sup>®</sup> 治療にあたって	ヒュミラ <sup>®</sup> の治療を始めるにあたって	12
	ヒュミラ <sup>®</sup> を投与できない患者さん	13
ヒュミラ <sup>®</sup> の安全性	ヒュミラ <sup>®</sup> の安全性について	14
ヒュミラ <sup>®</sup> 治療中の体調管理	ヒュミラ <sup>®</sup> 治療中の体調管理	16
	ヒュミラ <sup>®</sup> 体調管理ノート	18
日常生活について	壊疽性膿皮症治療中の日常生活FAQ	22
医療費助成制度	医療費の助成制度について	24
	ヒュミラ <sup>®</sup> の治療にかかる費用	26

## この冊子について

壊疽性膿皮症は、主に足の膝<sup>ひざ</sup>あたりから足首の部分(下腿)などに膿や痛みを伴う皮膚の潰瘍が繰り返しできる、炎症を伴う慢性の皮膚の病気です。原因は不明ですが、TNF $\alpha$ (ティーエヌエフアルファ)という炎症物質などにより免疫システムがうまく働かない免疫疾患であることがわかっています。壊疽性膿皮症の治療にはTNF $\alpha$ を抑える「抗TNF $\alpha$ 抗体薬」と呼ばれるお薬を用いることがあります。

「ヒュミラ<sup>®</sup>」は、日本で初めて皮下注射による壊疽性膿皮症の患者さんに投与できる抗TNF $\alpha$ 抗体薬です。この冊子では、「ヒュミラ<sup>®</sup>」の使い方について解説しています。ご不明なことなどがありましたら、遠慮なく主治医や看護師、薬剤師にご相談ください。また、巻末には体調管理ノートもついていますので、投与記録、および日々の体調記録としてご活用ください。

# 壊疽性膿皮症の治療の目的

壊疽性膿皮症の治療の目的は、皮膚の潰瘍を改善することに加え、痛みを軽減させ、患者さんの生活の質（QOL）を高めることにあります。壊疽性膿皮症は、さまざまなタイプがあるため、患者さんによって症状や基礎疾患の有無も異なります。潰瘍性大腸炎などの基礎疾患をもっている場合が多く、主治医とともにご自身にあった治療法を選択し、うまく付き合っていくことが大切です。よい状態を保ち、生き生きとした毎日を目指してヒュミラ®による治療に取り組んでいきましょう。

## 世界90カ国以上で使われている ヒュミラ®

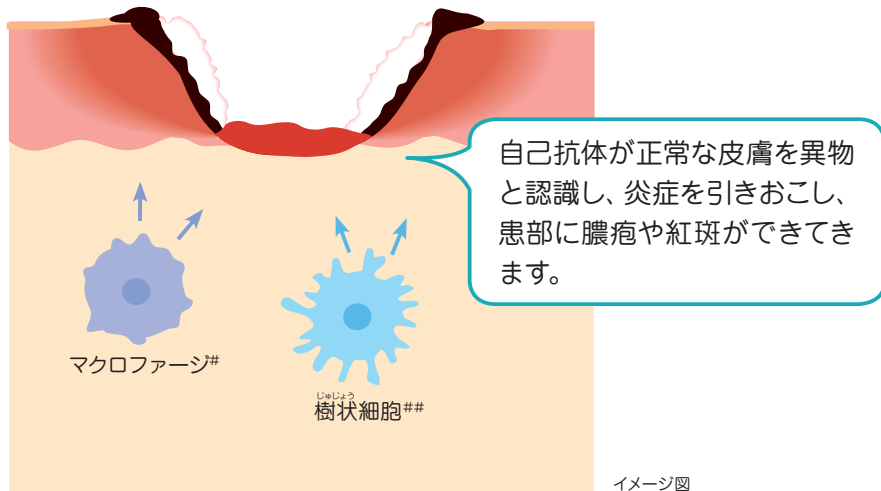
ヒュミラ®は、現在、日本を含む世界90カ国以上で発売されています。日本では、2008年4月に「関節リウマチ」の治療薬として承認され、現在までに「尋常性乾癬\*」、「関節症性乾癬\*」、「膿疱性乾癬\*」、「強直性脊椎炎\*」、「多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎\*」、「腸管型ベーチェット病\*」、「非感染性の中間部\*、後部又は汎ぶどう膜炎\*」、「中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法\*」、「中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療\*」、「化膿性汗腺炎」についての適応を取得してきました。そして、2020年11月に「壊疽性膿皮症」の適応を取得しました。

\* 既存治療で効果不十分例

# 壊疽性膿皮症の原因

壊疽性膿皮症の原因はわかりませんが、  
免疫が関係していると考えられています。

壊疽性膿皮症は、何らかの原因で主に足の膝あたりから足首の部分（下腿）などの皮膚に炎症がおきて、膿や痛みを伴う水ぶくれ（膿疱）や赤いぶつぶつ（紅斑）ができ、その周りが隆起してくる皮膚の潰瘍です。発症の原因は不明ですが、免疫システムの異常が関わっていると考えられます。このような病気を免疫疾患といいます。多くは潰瘍性大腸炎などの基礎疾患をもつ患者さんに合併して起こりますが、外傷や外的刺激がきっかけとなっておこる場合もあります。



# 異物（組織内に通常では存在しない物質）を捕獲して処理するとともに、異物に抵抗するための情報を免疫システムに伝える働きがあります。

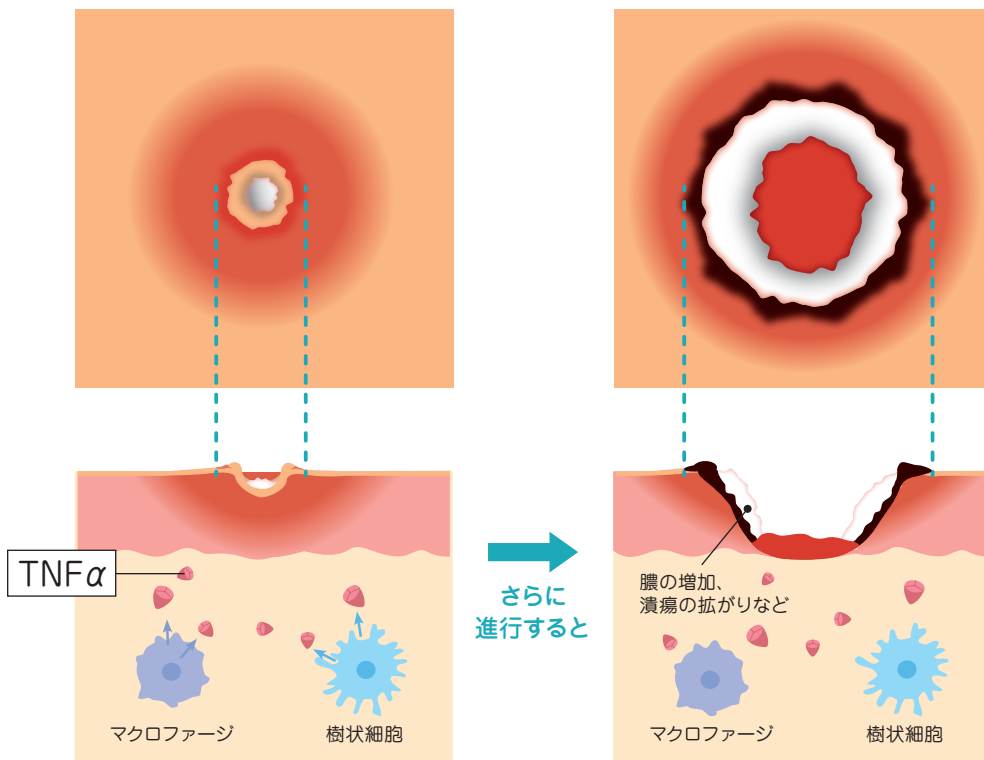
## 異物が侵入すると活性化され、異物に抵抗するための情報と指令を免疫システムに積極的に伝える働きがあります。

# 慢性的な炎症と「TNF $\alpha$ 」の関係

炎症の悪化・慢性化に大きな役割を担うTNF  $\alpha$ を抑えると、壊疽性膿皮症の症状軽減が期待できます。

壊疽性膿皮症の根底に潜む炎症には、TNF  $\alpha$ と呼ばれる物質が大きく関与していると考えられています。何らかの基礎疾患や外的刺激がきっかけとなり免疫が働いて、炎症物質であるTNF  $\alpha$ が増加し、炎症が悪化・慢性化することがあります。このTNF  $\alpha$ を抑えると、壊疽性膿皮症の炎症による患部の拡がりや痛みを鎮めることができると考えられ、TNF  $\alpha$ に対抗するお薬が「ヒュミラ<sup>®</sup>」です。

膿疱が大きくなり、潰瘍の周りが隆起し、境界がはっきりしてきます。



過剰なTNF  $\alpha$ が  
症状を悪化させます。

イメージ図

# 壊疽性膿皮症の治療

壊疽性膿皮症の治療を行うことで、

壊疽性膿皮症患者さんは  
強い痛みを伴う潰瘍が急速に  
広がることもあります。

治療により、炎症を抑え、  
潰瘍の縮小効果が  
期待されます。



治療 →

痛みの軽減と潰瘍の縮小により  
以前の日常生活を取り戻すことが  
期待されます。



## 壊疽性膿皮症の治療では、

- ① 包帯などが不要になるくらい潰瘍などの病変が消失すること
- ② 患部の炎症の度をあらわす「赤みと潰瘍の周りの隆起」が消失すること

の2点を目指しましょう。



壊疽性膿皮症の治療をすることでどのような効果があらわれますか？



効果の目安として主に以下の項目が期待されます。

- 潰瘍など患部<sup>※1</sup>の面積の大きさ
- 潰瘍など患部赤み<sup>※2</sup>の有無や濃淡
- 潰瘍など患部周囲の隆起<sup>※3</sup>の程度

このような目に見える効果のほか、患者さんの痛みを軽減することもあります。

注意：治療を行ったすべての患者さんにこのような効果がみられるわけではなく、症状が改善しにくい患者さんもいます。

※1 膿や痛みを伴う水ぶくれ(膿疱)や赤いぶつぶつ(紅斑)に始まり、炎症が進んでくると患部の周りが隆起して潰瘍ができますが、これは典型的な症状です。潰瘍にならないで水ぶくれのままなど患部のタイプはさまざまです。

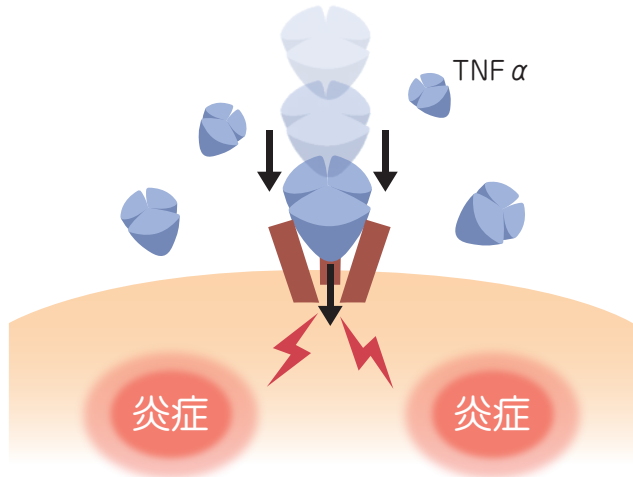
※2 赤みは濃淡だけでなく、わずかに残っている場合も評価の対象になります。

※3 隆起については高さや境界線がはっきりしているかどうかも評価します。

# ヒュミラ<sup>®</sup>の働き

TNF $\alpha$ が増えると、炎症の悪化・慢性化がみられます

私たちの体内には、TNF $\alpha$ の量が通常な場合は、それを処理するしくみが備わっていますが、通常では処理しきれないレベルの量になると、処理されなかったTNF $\alpha$ は、皮膚の細胞にあるTNF $\alpha$ の受容体と結合して、炎症を応援してしまうような指令を出してしまうため、周りの組織の炎症の悪化・慢性化を招いてしまいます。



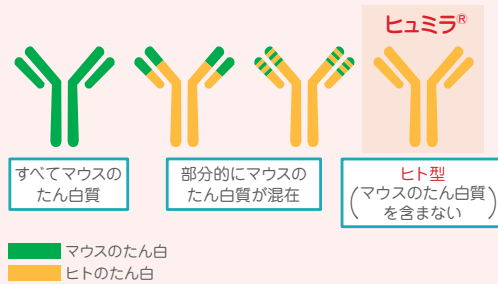
イメージ図

## 〈ヒュミラ<sup>®</sup>の成分について〉

ヒュミラ<sup>®</sup>は人間に存在する抗体によく似たお薬です

抗体とは、特定の異物（抗原）に特異的に結合して、その異物の生体への作用をなくす物質をいいます。こうした抗体の働きに着目して開発されたのが「抗体製剤」です。

抗体製剤に用いられる抗体には、マウスのたん白質だけを使用したもの、部分的にマウスのたん白質を使用したもの、マウスのたん白質を含まない人間の体内に存在する抗体に類似したもの（これを専門的には「ヒト型」といいます）があります。ヒュミラ<sup>®</sup>は、ヒト型の抗体製剤です。



イメージ図

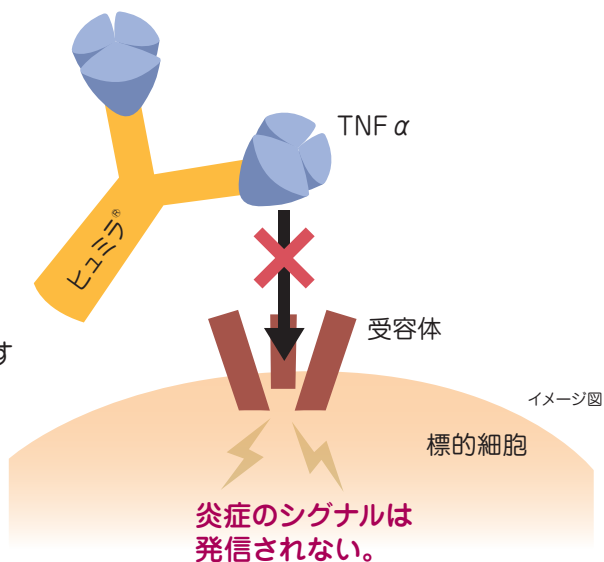


## TNF $\alpha$ はヒュミラ®に捕われて 細胞の受容体に結合できにくくなります

はたらき

1

ヒュミラ®は  
TNF $\alpha$ をキャッチし、  
TNF $\alpha$ が受容体に  
結合するのを防ぎます



はたらき

2

## ヒュミラ®はTNF $\alpha$ を作る 細胞を攻撃します

ヒュミラ®がTNF $\alpha$ を産生する細胞に  
結合すると、細胞内に攻撃シグナルが  
発信され、TNF $\alpha$ 産生細胞が壊れます。

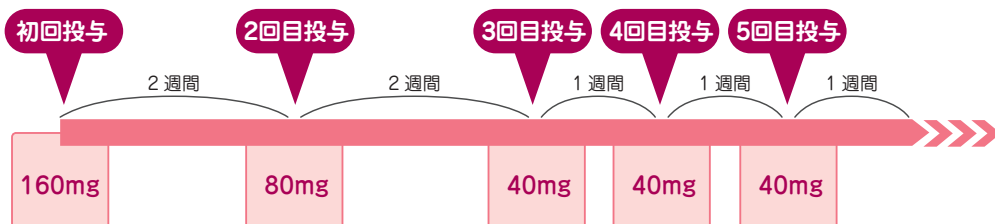


「ヒュミラ®」は、炎症の原因となるTNF $\alpha$ の働きを抑えることにより、症状の改善が期待できます。

# ヒュミラ<sup>®</sup>の投与方法

## 治療のスケジュール

1日目に160mg、2週間後の15日目に80mg、その2週間後（29日目）から毎週1回40mgを皮下注射します。



医師の管理指導のもと、自己注射による治療も可能です。

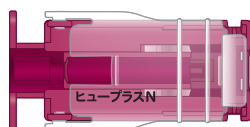


## ヒュミラ<sup>®</sup>の自己注射について

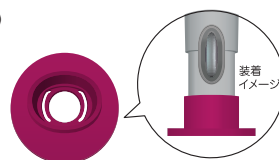
- 主治医の許可があれば、医療機関で注射指導を受けたあと、患者さん本人が注射する「自己注射」も可能です。
- ヒュミラ<sup>®</sup>には、シリンジ（写真左）とペン型（写真右）の2タイプがあります。
- 正しく適切に治療をしていただくための補助具もご用意しています。



補助具（シリンジ用）



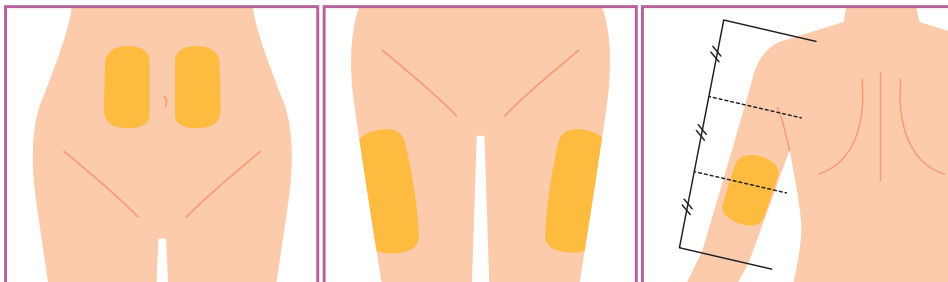
補助具（ペン用）



# ヒュミラ<sup>®</sup>の投与部位

ヒュミラ<sup>®</sup>は、おなか、太もも、二の腕の後ろ側のいずれかに注射します。

(皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている場所には注射しないでください)



おなか

太もも

二の腕の後ろ側

- ★注射部位は毎回場所を変えます。
- ★患者さん以外の方が投与する場合は、上腕部後ろ側に注射してください。
- ★使用済みの注射器(注射針)は取り扱いに十分注意し、廃棄する容器に入れて、医療機関から指示された方法で処分してください。
- ★お薬は箱のまま、必ず冷蔵庫で保管してください。冷凍庫には入れないようにしてください。

## 自己注射のメリット

- 通院に伴う時間的制約や負担が軽減できるため、生活スタイルに応じた治療が行いやすくなります。
- 通院日を調整できるので、仕事や旅行などの活動範囲が広がります。

わからないことが  
ありましたら  
主治医または看護師に  
ご相談ください。



# ヒュミラ<sup>®</sup>の治療を始めるにあたって

## 適切に治療していただくために、問診と検査を行います。

ヒュミラ<sup>®</sup>は免疫を司っているTNF $\alpha$ の作用を抑える働きがあるため、使用により感染症にかかりやすくなる可能性があります。感染症の多くは、<sup>びいんとうえん</sup>鼻咽頭炎や上気道感染などですが、もともとあった結核やウイルス性肝炎などが悪化したり、再発したりすることもあります。このため、ヒュミラ<sup>®</sup>の治療を始める前には、下記の検査を行って結核が再発する可能性があるか、または重い感染症にかかっていないかをチェックしたうえで治療を始めます。また治療中も必要に応じて検査を行い、有効性と安全性を確認します。

### 治療の前に行う検査

#### [結核に対する主な検査]

- ツベルクリン反応検査、インターフェロン $\gamma$ 遊離試験など
- 画像検査（胸部X線、CTなど）

#### [感染症に対する主な検査]

- 血液検査（白血球数、リンパ球数など）

#### [B型肝炎に対する主な検査]

- 血液検査（HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体など）

#### [その他問診事項]

- 今かかっている病気、服用中のお薬
- 以前かかったことのある病気
- 結核にかかったことがあるか（ご家族も含めて）
- アレルギーの有無
- 「生物学的製剤」の治療歴
- ワクチン接種の予定
- 女性のみ：妊娠・授乳について

### 治療中のチェック項目 必要に応じて検査を行います

#### [壊疽性膿皮症に対する主な検査]

- 病変の評価（視診）
- 二次感染の評価（細菌培養）
- 炎症の評価（CRP）
- 患部の生検

#### [安全性について]

- 注射部位、あるいはその他の部位に異常はないか
- 風邪などの感染症にかかっていないか
- 体調に変化はないか
- 血液検査（白血球数、リンパ球数など）

下記の方はヒュミラ<sup>®</sup>を投与することができません。該当する方は必ず主治医に伝えてください。

- 重い感染症（敗血症、肺炎など）にかかっている方
- 活動性結核（治療が必要な結核）にかかっている方
- ヒュミラ<sup>®</sup>の成分で過敏症が出たことがある方
- 脱髄疾患（多発性硬化症など）にかかっている、もしくはかかったことがある方
- うっ血性心不全の方

# ヒュミラ<sup>®</sup>の安全性について

## これまでの試験成績から、 ヒュミラ<sup>®</sup>の副作用に関する情報が集められています

副作用は早期発見し適切な治療を行うことで重症化を防ぐことが重要ですので、少しでも異常を感じたらすぐに主治医に連絡してください。

### 予想される主な副作用

#### ● 注射部位反応

注射した場所が、赤くなったり腫れたりすることがあります。

#### ● 風邪のような症状

上気道感染や副鼻腔炎など、風邪のような症状がみられることがあります。

#### ● アレルギー症状

発熱・発疹・口内異常感・皮膚のかゆみや赤み・熱感などの症状があらわれることがあります。



### 特に注意すべき副作用

#### ● 重い感染症（結核、敗血症、肺炎など）

発熱や咳、息苦しい、体がだるいといった症状があらわれることがあります。

#### ● アナフィラキシーショック

投与30分以内に、呼吸困難、血圧低下、吐き気などがおこることがあります。

#### ● 血液障害

血液中の白血球、赤血球、血小板の一部またはすべてが減少することがあります。

#### ● 間質性肺炎

発熱や咳、息苦しい、全身のだるさといった症状があらわれることがあります。

#### ● ループス様症候群

自分の身体に対する抗体があらわれて、関節痛・筋肉痛・紅い斑点などの症状があらわれることがあります。



## ● 脱髄疾患

だつずいしっかん  
しんけいせんい

神経線維の一部が壊されてしまう病気です。代表的な疾患に多発性硬化症があります。ご本人が脱髄疾患にかかっている場合や、ご家族に脱髄疾患と診断された方がいらっしゃる場合は、必ず主治医に申し出てください。

たはつせいこうかしょう

## ● 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全

げきしょうかんえん かんきのうしょうがい おうだん かんふぜん

意識の低下、発熱、身体がだるい、皮膚や白目が黄色くなる、食欲不振、尿が褐色になるなどの症状があらわれることがあります。B型肝炎にかかったことがある方は、主治医に申し出てください。

## その他の注意事項

### ● 悪性腫瘍

因果関係は不明ですが、TNF $\alpha$ の働きを抑える生物学的製剤の投与を受けた患者さんで、悪性腫瘍・悪性リンパ腫を発症した方がいました。このため、現在も調査が進められています。

### ● ワクチン接種

ワクチン接種を希望される場合は、接種の可否について主治医に相談してください。

### ● B型肝炎

過去にB型肝炎にかかったことがある患者さんは、再び症状があらわれることがあります。



# ヒュミラ<sup>®</sup> 治療中の体調管理

ヒュミラ<sup>®</sup> 治療中は、ご自分で体調管理をすることがとても大切です。

ヒュミラ<sup>®</sup>の治療を受けている期間は、患者さんご自身で体調管理をしていただく必要があります。

「ヒュミラ<sup>®</sup> 体調管理ノート」は、注射スケジュールや日々の体調を記入できるものですので、ご活用ください。





体調の変化を感じたら、すぐに主治医または看護師に連絡するようにしましょう。

## こんな症状にご注意ください

これらの症状があらわれたときは、次の受診日を待たずに、すぐに受診してください。

### ●風邪のような症状

熱っぽい、熱がある、咳（からせき）、痰が出る、息切れや息苦しさ、のどが痛む

### ●皮膚の症状

じんましん、かゆみ、皮膚や白目が黄色くなった  
全体に赤く腫れて痛みが強くなった

### ●その他

口内炎、疲れやすい、だるい



このような症状や「何か体調がおかしいな？」と感じたら、すぐに受診してください。

# ヒュミラ<sup>®</sup> 体調管理ノート

## 記入の仕方

この体調管理ノートは、ヒュミラ<sup>®</sup> 治療中の体調の変化が記録できるようになっています。注射のことや気になることなど、以下を参考に記録し、受診時に主治医に連絡するようにしましょう。

体調の変化に注意しながらヒュミラ<sup>®</sup>を投与した日について記録しましょう。

ヒュミラ<sup>®</sup>を投与した部位をチェックしておきましょう。

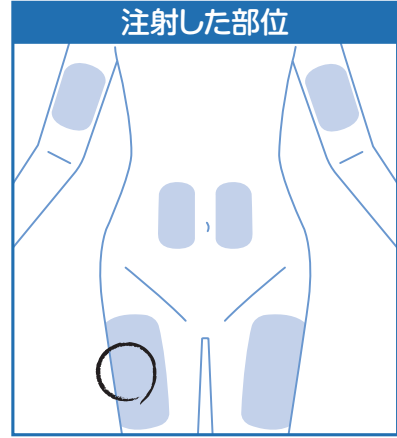
ヒュミラ<sup>®</sup>を投与し始めてからの症状の変化を記録しておきましょう。

ヒュミラ<sup>®</sup>の次回投与日までの体調の変化を記録しましょう。  
体温は毎日測って記入しておくといでしょう。  
風邪っぽい症状以外にも、気になる症状があれば記載しておきましょう。

自分の体調のことや気になることなどがあったら、体調管理ノートに記入しておき、主治医に確認しましょう。

■ 注射日の記録

日付	5 月 3 日 ( 火 曜日 )
注射部位の腫れ・痛み	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし



■ 症状のチェック

皮膚の症状	症状の改善がみられた日
<input checked="" type="checkbox"/> 潰瘍など患部の赤み・数が減った	5 / 17
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部の痛みが和らいだ	/
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部が小さくなった	/

■ 次回注射日までの体調管理

日付	気になる体の不調 (発熱/だるさ/吐き気)	体温
5 / 4 ( 水 )	朝から熱があった	38.5 °C
5 / 5 ( 木 )	のどが痛い	38.0 °C
5 / 6 ( 金 )	咳が少しでる	37.5 °C
5 / 7 ( 土 )	熱がさがった	36.8 °C
/ ( )		°C
/ ( )		°C
/ ( )		°C
/ ( )		°C
/ ( )		°C
/ ( )		°C
/ ( )		°C

## ■ 注射日の記録

日付	月	日(曜日)
注射部位の腫れ・痛み	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし



## ■ 症状のチェック

皮膚の症状	症状の改善がみられた日
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部の赤み・数が減った	/
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部の痛みが和らいだ	/
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部が小さくなった	/

## ■ 次回注射日までの体調管理

日付	気になる体の不調(発熱/だるさ/吐き気)	体温
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃

/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃

## ■ 注射日の記録

日付	月	日( 曜日)
注射部位の腫れ・痛み	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし



## ■ 症状のチェック

皮膚の症状	症状の改善がみられた日
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部の赤み・数が減った	/
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部の痛みが和らいだ	/
<input type="checkbox"/> 潰瘍など患部が小さくなった	/

## ■ 次回注射日までの体調管理

日付	気になる体の不調 (発熱/だるさ/吐き気)	体温
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃

/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃
/ ( )		℃

# 壊疽性膿皮症治療中の日常生活FAQ

**Q** 病変部の痛みが強いつきはどうすればよいでしょうか？

**A** 痛みは、潰瘍部位の処置をする際や、処置と関係なくみられることがあります。具体的な痛みの状態・程度、持続時間など、主治医に相談しましょう。  
なお、市販のお薬を服用する場合は、主治医や薬剤師に相談してからにしましょう。

---

**Q** 患部をぶつけてしまいました。なにか処置が必要でしょうか？

**A** 痛みや出血がひどいようなら、すぐに主治医に相談しましょう。特に症状がないようでしたら、様子を見ていてかまいませんが、ぶつけた事実については主治医に伝えましょう。

---

**Q** ガーゼや包帯ににじみだしてしまいました。患部を洗っても大丈夫ですか？

**A** シャワー浴や水道水で洗って大丈夫です。石鹸も使ってかまいません。洗った後は、清潔なガーゼ等で保護し、あらためて主治医と相談しましょう。

---

**Q** 入浴やシャワー浴はしてもよいですか？

**A** 大丈夫です。患部がしみなければ湯船に入ってもかまいません。最後にきれいな温水をかければその後消毒する必要はありません。シャワーのお湯をかける際は、痛まない程度の強さにすることに注意してください。痛む場合は直接かけないようにしてください。

---

**Q** 食事で気を付けることはありますか？

**A** 食生活が壊疽性膿皮症にどのような影響を与えるかは、よくわかっていません。したがって、健康的な生活を維持するため、一般的なバランスの良い食事を心がけましょう。  
なお、ヒュミラ®の作用に影響を与える食品は、現時点ではありません。

**Q** 喫煙や飲酒をしても大丈夫ですか？

**A** 喫煙や飲酒の壊疽性膿皮症に対する影響は、よくわかっていないのが現状です。  
しかし、一般的に喫煙や過度な飲酒は、健康的な生活をおくることの障害になりますので、避けたほうがよいでしょう。

**Q** 再発することはありますか？

**A** 壊疽性膿皮症は、頻度は不明ですが再発することがあります。また、なおった何年もあとに再発した患者さんもいます。  
治療中だけでなくなおった後も、時折、全身を注意深く観察してみましょう。

**Q** 膝<sup>ひざ</sup>から足首までの部分以外でも症状は起こりますか？

**A** 壊疽性膿皮症は、膝<sup>ひざ</sup>から足首までの部位に生じることが最も多いのですが、全身におこりうるということが知られています。気になる症状を見つけたら主治医に相談しましょう。

**Q** 皮膚以外に症状はでますか？

**A** 壊疽性膿皮症は、患者さんによっては皮膚症状以外に、潰瘍性大腸炎やクローン病、関節リウマチ、そのほか血液疾患と一緒に起こる場合があることが知られています。  
下痢や関節の痛み、貧血のような症状がみられる場合は、主治医に相談しましょう。

# 医療費の助成制度について

2022年4月現在

## 主な医療費の助成制度と概要

公的支援

高額療養費制度  
(詳しくはp26参照)

1ヵ月の自己負担が一定の限度額を超えた場合、超過した自己負担額の払い戻しを受けることができる制度。



税金の  
医療費控除

1年間の自己負担が一定額を超えた場合、確定申告によって所得税が減税される制度。さらに身体障害者の認定を受けている場合は障害者控除が受けられる。



<「身体障害者手帳」を交付された方>

身体障害者  
福祉制度

「身体障害者手帳」を交付された方が、その障害の程度に応じて各種サービスを受けることができる制度。



<介護認定を受けている方>

公的介護保険

40歳以上の方が利用でき、認定された支援・介護度に応じた介護サービスを受けることができる制度。  
利用額の1～3割を自己負担する。



<障害年金を受けている方>

障害年金

国民年金、厚生年金などに加入している方で、障害によって日常生活に支障をきたしている場合に年金を受けられる制度。



民間

付加給付制度

ご加入の健康保険による、企業や組合独自の助成制度。





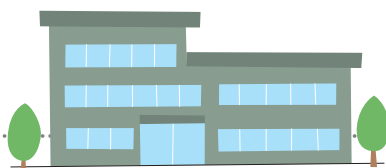
## お問い合わせ先

**国民健康保険**：市町村役場の国保窓口、国保組合の窓口

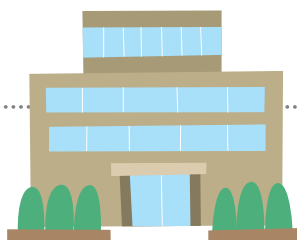
**協会けんぽ（旧・政管健保）、船員保険**：全国健康保険協会の各都道府県支部窓口

**その他**：健康保険の保険者（各健康保険組合・共済組合の窓口）

税務署



市町村役場、福祉事務所の窓口



市町村役場、福祉事務所の窓口

**国民年金**：市町村役場の年金窓口、年金事務所

**厚生年金**：年金事務所

**その他**：共済組合の窓口、年金事務所

ご加入の健康保険の窓口または会社担当者

支給される金額、制度の利用条件が異なりますので、詳しくは相談窓口へ  
ご相談ください。

# ヒュミラ<sup>®</sup>の治療にかかる費用

2023年4月現在

## 参考：ヒュミラ<sup>®</sup>の治療にかかる費用

	初回投与时 <sup>※1</sup> 〔40mgを 4本投与した場合〕	2回目 <sup>※2</sup> 〔40mgを 2本投与した場合〕	3回目以降 <sup>※3</sup> 〔40mgを 月に4本投与した場合〕
1割負担 <sup>※4</sup>	約21,170円	約10,590円	約21,170円
2割負担 <sup>※5</sup>	約42,340円	約21,170円	約42,340円
3割負担 <sup>※6</sup>	約63,520円	約31,760円	約63,520円

### この他、診察料や検査料などの医療費が別途かかります

高額療養費制度が利用できる場合がありますので、詳しくはご加入の医療保険やお住まいの自治体にお問い合わせいただくか、医療を受けている医療機関の相談窓口でご相談ください。

※1：40mg(シリンジ0.4mL)を初回に4本投与した場合の推計金額です(2023年度薬価に基づく)

※2：40mg(シリンジ0.4mL)を2週間後に2本投与した場合の推計金額です(2023年度薬価に基づく)

※3：40mg(シリンジ0.4mL)を月に4本投与した場合の推計金額です(2023年度薬価に基づく)

※4：75歳以上で2割負担、3割負担以外の方

※5：70～74歳で3割負担以外の方、または75歳以上で一定以上所得者の方

※6：70歳未満または70歳以上で高額所得者など

## 高額療養費制度とは

- 高額療養費制度では、年齢や所得に応じて、支払う自己負担限度額が定められています。
- 事前に「限度額適用認定証」を申請すると、医療機関等の窓口での支払いが自己負担限度額までとされ、一時的な支払いの負担を避けることができます。
- さらに負担を軽減する仕組みも設けられています(『多数回該当』、『世帯合算』)。
- 高額な医療費の支払いが必要である場合に、高額療養費が支給されるまでの間、無利子で当座の資金を借りることができる高額医療費貸付制度があります。

※申請方法や詳細につきましては、国民健康保険(国保)の場合には市区町村国民健康保険担当課、健康保険(社保・共済)の場合には、ご加入の健康保険組合にお問い合わせください。

明日の笑顔  
のために

## ヒュミラ®は、患者さんをサポートします

ヒュミラ®の治療を受けている間は、体調に注意し、無理のない生活を送りましょう。また、ヒュミラ®の治療が始まったら、体調管理ノートなどにご自分の状態を記録し、気になることがあったら、主治医に確認しておきましょう。

- ◆ 風邪など感染症を予防するために、  
外出から帰ったら手洗いやうがいを心掛けましょう。
- ◆ ヒュミラ®の治療は治療開始4週間後以降は  
毎週1回ごとの皮下注射が基本です。  
注射日は忘れないようにしましょう。
- ◆ 治療中は「体調管理ノート」を活用して体調管理に  
努めるとともに、からだに無理をかけず、  
できるだけストレスのない生活を心掛けましょう。



## ヒュミラ<sup>®</sup>に関する問い合わせ窓口とホームページの紹介

---

### ■ アッヴィ合同会社 くすり相談室

フリーダイヤル(通話無料)

**0120-587-874**

【9時～17時30分(土日・祝日、当社休日を除く)】

### ■ ヒュミラ<sup>®</sup>情報ネット

**<https://www.e-humira.jp/>**



ヒュミラ<sup>®</sup>使用中に気になる症状があらわれた場合は、すぐに主治医にご連絡ください。

---

施設名